

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

(発行)

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8
(社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団内)
電話 (03) 5272-1210
FAX (03) 5272-1213
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

会報

第92号

平成22年3月31日発行

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
会長 濱川 浩子
(東京都立墨東特別支援学校PTA会長)



平成21年度も3月をもって年度終わりになります。皆様の学校では4月から新年度に向けて行事や活動が始まっているかと思えます。

私の学校でも、3月の卒業式を終え特別支援学校を巣立って行く子どもたちを見送りました。まだ、桜の便りは聞けません、この会報が皆様のお手元に届く4月には桜も満開の頃と想像します。新年度も役員の皆様をはじめ各校のご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて、当会の江本緑前会長が委員として出席しております「特別支援教育の推進に関する調査協力者会議」は検討の方向性や諸課題についての整理が終わろうとしています。

その中でも特別支援教育担当教員等の専門性について、特別支援学校、特別支援学級、通級担当教員、特別支援教育コーディネーター、通常学級担当教員それぞれが必要とする知識及び理解の重要性、学校外の人材や関係機関等との連携協力などについての概要案が協議されています。外部人材の登用には地域の環境や学校の種類によって温度差もあるのではないのでしょうか、皆様の学校ではどのような様子か大変興味があります。

お話の情報交換は今年の全国大会(山形大会)で伺えたらと思います。近々、協力者会議からは審議の「まとめ」として報告書が示されると思っています。

また、現在進んでいます注目の会議に、内閣府の障害者制度改革の検討委員会があります。こちらの状況も踏まえつつ、特別支援教育の充実を訴えていかなければなりません、障害者権利条約の批准にも関心を持って、その経緯を見て参りたいと考えています。皆様も内閣府のHPなどを参考になさってください。

オリックス株式会社より寄贈

かねてよりオリックス株式会社から、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会へ物品寄贈のお話がありました。内容は特別支援学校の子どもたちへ物品を贈り、支援をしたいとの申し入れでしたので、当会が仲介をすることになりました。

この度、それが実現いたしました。平成22年3月2日(火)東京都立墨東特別支援学校へ32型TV(スタンド付)2台が寄贈されました。田添校長先生はこのTVを子どもたちの教材などに活用したいとお話しておりました。なお、同月18日には東京都立光明特別支援学校へタッチパネル機能のついたPCを2台物品寄贈(納入)する予定です。21年度はオリックス株式会社より、総額50万ほどの物品寄贈をいただきました。御社へ厚く御礼申し上げます。



オリックス株式会社社会貢献基金担当藤田氏(写真右)、全肢P連・濱川会長(左)と田添校長先生(中央)へ目録贈呈をしている様子(墨東特別支援の校長室にて)

「よりよい交流及び共同学習を進めるために」

講師：(独)国立特別支援教育総合研究所 長沼俊夫氏

平成22年1月21日(木)全国心身障害児福祉財団内の会議室において、保護者研修会が行われました。テーマは「よりよい交流及び共同学習を進めるために」宮崎大会の第1分科会の指導・助言者としてお世話になりました、長沼俊夫先生が講師を務めてくださいました。



○交流及び共同学習とは

平成16年6月に施行された障害者基本法の一部改正の際に示された、交流及び共同学習についての規定にはじまり、特別支援学校、小・中学校の特別支援学級または通常の学級に在籍している障害のある児童生徒が障害のない児童生徒と同じ教育の場で共に学習や活動を行うものを指す。

児童生徒が他の学校の児童生徒と理解し合うための絶好の機会であり、同じ社会に生きる人間として、互いに正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場であると考えられる。

○間接的交流として

学校便り、学級便りなどを交換する、特別支援学校の児童生徒の美術作品等を、市内の小・中学校に巡回展示する。駅の展示版やスパーマーケット、病院、役所等に展示する。特別支援学校と地域の人々との交流では、地域行事への参加、祭礼、子

供会、清掃活動など、他にも茶道、書道、生け花などの伝統文化を学ぶこと、プロスポーツ選手との交流活動も含まれる。

○居住地域における直接的な交流によるもの

教科等の授業における交流、音楽、図工、美術、生活科、総合的な学習、特別活動や給食などにおける交流、学校間の交流でも、学校行事や運動会、文化祭などの招待や合同開催など、さまざまな取り組みが考えられる。

○教育課程上に位置づく授業について

在籍校や自宅から活動場所へ移動する場合は、その距離や時間、児童生徒の発達段階等を勘案し、教職員間や保護者等との連携・協力の下、安全面で十分な配慮を行うことが大切である。指導計画を作成し、活動を無理なく継続的に繰り返せることができるよう考慮する。また、体験的な活動を取り入れる。障害



のある子どもにとってわかりやすい、参加しやすい工夫を実際的に考える。共通理解にもとづく連携をつくる。

○事前学習と事後学習

子どもたちが主体的に活動に取り組めるように、障害のある子どもたちの活動状況や周囲の者の支援の様子を常に把握し、円滑に活動できるように指導・助言する。事故防止に努めるとともに、活動が加重負担にならないように留意する。そのためにも、両者が話し合う機会を計画的に確保する。

活動を振り返り、関心を一層深め、次回への期待を高めるような工夫が必要であり、活動を通して、相互理解がどのように進んだか評価する。

(当日資料より抜粋)

【全肢P連会報 編集コラム】

今回の92号の発行で、アムファインとのコラボが年間、一回りしたことになります。アムファインとの合併号として年4回、当会の単独の発行は2回(総会報告と全国大会特集号)があります。合わせますと年6回の発行になりますが皆様からのご感想は概ね好評のようです。ある保護者の方は電車の中で開いていても、表紙もカラーで一見ファッション誌と変わらないので見やすいですとおっしゃっていました。なかなか個人で、多様な情報を集めるのは時間と努力が必要ですので福祉冊子としてもご活用いただけて嬉しい限りです。今後とも多彩な紙面と専門性の高い情報を合わせて皆様のお手元に届けたいと考えております。《事務局長 佐竹京子》